

はじまりと設立

洗剤による水環境の悪化が社会問題化する中、「協同組合せっけん運動連絡会（協石連）」は1981年に設立しました。せっけん運動を推進する協同組合や生産者団体が中心となり、安全や環境に配慮した活動を推進してきました。合成洗剤問題の研究やせっけんの改良・普及にとどまらず、広く環境問題に目を向け、飲料水の水質調査や無蛍光衣料の普及、化学物質削減ネットワーク（Tウォッチ）への参加などの活動も行なってきました。またアジア各国でせっけん会議を開催するなど、海外でも活動を展開してきました。参加しやすく、多くの団体で運営していく組織になるために組織を改編し、「せっけん運動ネットワーク」として再出発してから今日に至るまで、全国の仲間とともにせっけん利用者を増やす取り組みを続けています。

せっけん運動ネットワークの目的と展開

私たちは地域生協、大学生協、NPO、市民団体など、おおいが参加できるせっけん運動のネットワーク機構です。せっけんを入口として環境問題全般に広く関心を持ち、相互交流をはかり、地域におけるせっけん運動の発展をめざします。また今までにない新しい活動提案もしていきます。専用のホームページでは、相互の情報交換だけでなく広く活動参加を呼びかける仕組みを作っていきます。

人と環境にやさしいせっけんを使いましょう

洗剤には昔ながらのせっけんと合成洗剤の2種類があることをご存じですか。合成洗剤は第一次世界大戦中にせっけんの原料である天然油脂が不足し、石油を精製する時に出る廃棄物から作られたのが始まりです。天然原料をうたう合成洗剤でも分解に時間がかかるものが多く、また、人の健康や水生生物への様々な影響が心配されます。5千年も前から人の暮らしと共にあるせっけんは分解性にすぐれ、人の健康や自然環境にも悪影響を及ぼさないすぐれた洗浄剤です。ぜひ、せっけんの使用を広めていきましょう。

改定日 2019年5月

私たちの健康と子どもたちの未来のために

わたしたちは、身近な暮らしを見直し、健康や環境に悪影響を及ぼす合成洗剤ではなく、せっけんを選ぶことを入口にして、被害者にも加害者にもならない暮らしをめざしています。団体、個人を問いません。せっけん運動ネットワークに参加しませんか。

規約(抄録)

会員

会員は、正会員(団体)・準会員(団体)・個人会員の3つに区分します。

▶正会員

- ・議決権を有し、この会の運営に携わることができるものとします。
- ・この会が主催する「シャボン玉フォーラム」への参加費を半額免除とします。
- ・この会のHPにおいて、団体名を表記します。
- ・発行物の閲覧やダウンロードを可能とします。

▶準会員・個人会員

- ・発行物の閲覧やダウンロードを可能とします。

会費

活動に必要な費用は、会員から拠出される会費を以て賄うこととします。

①正会員：年1口10,000円

②準会員：年1口5,000円

※基準とする口数は会員数2,000人までを1口とし、超える場合は2,000人毎に1口を加算します。但し、会費の上限は300,000円とします。

③個人会員：年1口2,000円

但し、以下団体は特別枠とします。

④連合会会費：年10口100,000円

⑤漁協・農協・大学生協：年1口10,000円

問い合わせ先

せっけん運動ネットワーク事務局

TEL：045-577-0160

E-mail：sekken.network@gmail.com

横浜市港北区新横浜2-2-15 バレアナビル5F
(生活クラブ生活協同組合・神奈川内)



せっけん運動ネットワーク

(旧 協同組合石けん運動連絡会)

せっけん使用を入口に
環境保全を考える

<http://sekkennet.org/>

せっけん運動のあゆみ

	せっけん運動のあゆみ	社会の動き
1978年	「琵琶湖を守る粉石けん使用推進県民運動県連絡会議」（後のびわ湖会議）発足	合成洗剤・油放・石けん使用を提起した直接請求運動を展開
1979年		びわ湖富栄養化防止条例制定
1981年	協同組合石けん運動連絡会 結成集会を開催（10月3日高松）	
1984年	石けんと無リン洗剤の比較調査。「石けんと合成洗剤」発行。第1回シャボン玉月間スタート	無リン洗剤のシェアが90%を突破
1987年		皮膚障害の第一位は合成洗剤との健康被害モニター報告（厚生省）
1988年	びわ湖会議10周年。石けん使用率は31%に減少（ピークは75年の71%）。第1回シャボン玉フォーラム開催	
1989年	若者向け新せっけんシャンプー「ワイルケア」供給開始	
1999年		※1 ダイオキシン特別措置法 ※2 PRTR法公布
2000年	滋賀県のびわ湖会議が「石けんも洗剤も適正に使用する」と方針転換「エコキッチン革命」を提唱	
2002年	有害化学物質削減ネットワーク（Tウォッチ）設立総会	
2005年	Tウォッチ化学物質政策基本法を求めるネットワーク（ケミネット）に参加	
2010年	協石連の今後の運営及び組織のあり方について全体で討議することとした	
2011年	組織改編の策定を進める	
2013年	せっけん運動ネットワーク 第1回定期総会	
2016年	今後の活動のあり方や組織の課題について各会員へのアンケートを実施した	

※1 ダイオキシン特別措置法 ダイオキシン類による環境の汚染の防止及びその除去等をするためダイオキシン類に関する施策の基準の制定

※2 PRTR法 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化学物質排出把握管理促進法）

全国規模で行う活動紹介

》シャボン玉月間

1984年から毎年7月を中心に行なってきた全国統一活動です。「安全性や環境影響に不安のある合成洗剤の使用をやめて、せっけんを使いましょう」をコンセプトに、統一ポスター等を用いて、せっけんの使用を広く地域へ呼びかけます。会員団体の組合員のせっけん利用率を高める活動と合わせて、地域の人々にもせっけんの使用を呼びかけています。また、毎年行政訪問活動を実施し、各自治体へもせっけん利用をはたらきかけ、全国の首長メッセージを集め機関紙で特集号を作成しています（HPで案内しています）。新しい組織となってもシャボン玉月間の取り組みを中心的な取り組みとして精力的に行なっています。



》シャボン玉フォーラム

次世代にきれいな水と豊かな自然を残していくため、またせっけんの使い手を増やしていくために、毎年5月頃、各地の参加団体が持ち回りで、全国集会【シャボン玉フォーラム】を主催しています。1988年から開催を重ね、2019年には32回をむかえます。活動の成果や課題についての情報交換や、水環境保全を中心とした環境問題をテーマに、開催地の特徴を生かした講演会や分科会を企画しています。



全国に広がる せっけん運動ネットワークの輪

生協の活動として、せっけん工場への見学などを行ない、せっけんについて知り、よさを広く伝えていけるように積極的に学習会にも取り組んでいます。

「私たちがせっけんをすすめる理由」「せっけんを使用する中での悩みと使いこなしの工夫」「せっけんシャンプー・リンスの使い方」など、せっけん学習会やせっけんお悩み相談会など地域での取り組みを行なっています。

せっけんの洗浄力のよさをブラックライト実験、かいわれ実験、泡立ち実験などの比較実験でアピールし、合成洗剤からせっけんへ切り替えを呼びかけています。

せっけん運動の担い手を増やしていくために、化学物質学習会、香害問題学習会などについて連続講座など行ない、PRTR法やGHSの現状についても学習しています。

楽しくせっけんライフを送ることができるよう、語り合える場を設ける活動をしています。子育てサークルに出向いて、学習会を開催し、若いお母さんたちにもせっけんの利用をすすめています。

これからもさまざまな取り組みの中で、せっけんのよさを伝え、せっけんの使い方を実際に紹介するなど、わかりやすく利用を呼びかけていきます。

※ GHS 世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステムのこと